

活動成果報告書

令和6年度（第28回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の啓発活動 ～市民向け出前講座とエンディングゲーム製作について～	
グループ名称・氏名（グループの場合は代表者名） 豊中市医療支援課地域医療推進係（豊中市保健所） 代表者：岡部 祐子	
勤務先：豊中市保健所 所 属：医療支援課 地域医療推進係 所在地：〒561-0881 大阪府豊中市中桜塚4-11-1 TEL：06-6152-7309 FAX：06-6152-7328	
豊中市ホームページ https://www.city.toyonaka.osaka.jp/kenko/kenko_hokenisei/chiikiiryo_suishin/a001050060010000.html	

◇活動方針

本市では、平成29年（2017年）3月に策定した「地域医療推進基本方針」において、市民の役割の一つに「最期の過ごし方、過ごす場所について考え、伝えておくこと」を掲げた。その理由は、豊中市介護保険及び健康福祉に関するアンケート調査において、市民が最期を迎えたい場所（病院：44.6%、自宅：26.2%、施設：3.4%、不明等：25.8%）と、実際の死亡場所（病院：68.8%、自宅：19.3%、施設：9.0%、その他：2.9%）に差があり、希望が叶うことが難しいからである。その対策の一環として、私たちは、平成30年度（2018年度）からアドバンス・ケア・プランニング（以下「ACP」という。）に関する市民向け出前講座を実施してきた。

自分の受けたい医療・ケアや受けたくない医療・ケアを選択しなければならないタイミングは、いつ訪れるか予測することができず、場合によっては、家族や医療者などに自分の意思を伝えることができない状態に陥っていることが考えられる。そのためにも事前の準備が重要である。元気なときから希望する医療・ケアについて、考え、話し合い、伝えることで、もし意識が無くても代弁者がいれば、自らの意思を伝えることが可能となる。本人の意思決定を支援するため、出前講座を通じてACPの概念を多くの市民に伝えていくことである。

※アドバンス・ケア・プランニング（ACP）とは、自分の価値観を認識し、今後の人生についてどう生きたいかを、本人が主体となって、その家族や近しい人、医療・福祉・ケアの担い手と共に考えるプロセスのこと。（出典：看護職のためのACP支援マニュアル）

◇活動内容とその成果

①市民向け出前講座

講座内容：講座全体の時間は約1時間～1時間30分、前半は座学（45分程度）、後半はACPに関するDVDの視聴、時間配分によって意見交換の時間を設ける。座学は、「考える」、「話し合う」、「伝える」の三本柱で構成する。講座の参加者は、自らの考えや想いを整理するために、質問用紙に記載しながら受講する。

活動成果報告書

対象者：市民

実施期間：平成 30 年（2018 年）4 月 1 日から令和 6 年（2024 年）3 月 31 日

実施回数：31 回

参加者数：延べ 421 人（男性 90 人/21%、女性 285 人/68%、無回答 46 人/11%）

参加者の年齢構成：50 歳代以下 12 人/3%、60 歳代 46 人/11%、70 歳代 169 人/40%、80 歳代以上 152 人/36%、無回答 42 人/10%

講座の感想：講座終了後にアンケート調査を実施。約 8 割の参加者から「とても良かった」、「良かった」との回答があった。約 7 割の参加者は、ACP の考え方に賛成であった。「あなたが望む最期を迎えるために重要だと思うことは何か」の質問については、「自分らしくいられること」、「家族等の負担にならないこと」、「体や心の苦痛なく過ごせること」の意見が多くあった。自由記載欄には、「もっと早く聞きたかった」、「息子や娘に聞いてもらいたい」といった声があった。



②エンディングゲームの製作

出前講座の参加者は、高齢者が大半を占め、「もっと早く聞きたかった」、「息子や娘に聞いてもらいたい」といった声があったことから、より若い世代、特にこれから親の介護のことを考える世代や定年退職を迎える世代である 40 歳代から 60 歳代に ACP の概念を普及できないかと部署内で検討を重ねた。令和 4 年度豊中市地域課題解決支援事業に参加し、ACP を若い世代に効果的に啓発するためのツールとして ACP 啓発ボードゲームの製作を企業と協働で開始した。約半年間の試行錯誤の末、ACP について楽しみながら考えるすごろく形式の「エンディングゲーム」が完成した。令和 6 年度には製品化され、「エンディングゲーム」を活用した出前講座を開始している。

共同開発者：(株)omniheal/おうちの診療所中野

エンディングゲームの概要：架空のキャラクターになりきり、人生の終盤を疑似体験することで、医療・ケアについて考え、参加者同士で対話することができるすごろくゲームである。



③『人生会議の日』イベント開催

目的：エンディングゲームを体験することで自分事として ACP を考える機会となる。

日時：令和 6 年（2024 年）11 月 30 日（土）13 時-15 時

内容：【第 1 部】

■ACP についてのお話

講師：石井洋介先生（(株)omniheal 代表取締役/おうちの診療所中野院長

■ゲーム体験会（エンディングゲームの体験）

活動成果報告書

【第2部】

■トーク「自分らしく人生を送るために大切なこと」

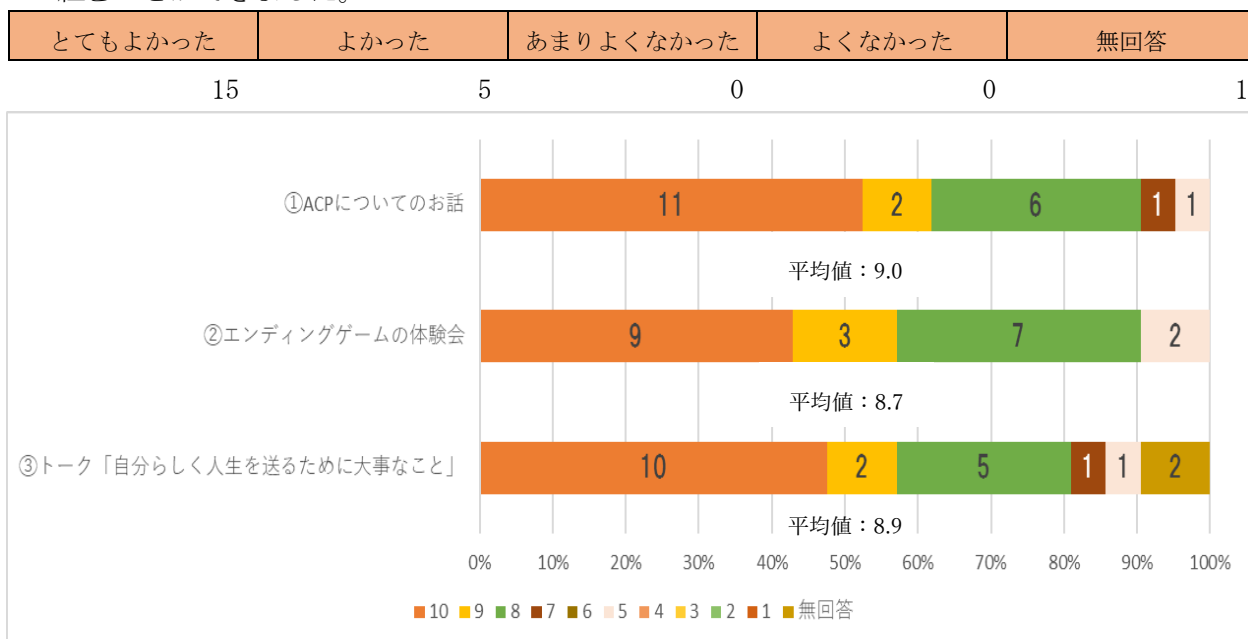
演者：石井洋介先生・松浪桂豊中市保健所長

参加者数：22名（男性/5名、女性/13名、無回答/4名）

アンケート結果：アンケート回収率（21名/22名中：95.5%）

【参加した方々の感想】

- 自分と家族で色々話し合っってよりよく最期を迎えられる準備をしたいと思いました。
- 自分ではなく架空に人物として考えることができるので少し気楽に取り組むことができました。



◇今後の計画

人生最終段階における医療・ケアの意思決定支援を適切に行うためには、市民だけでなく医療・介護従事者へのACPの周知が不可欠である。令和3年度から医療・介護従事者向けの研修会や事例検討会等を実施しているが、介護施設等の従事者にエンディングゲームを体験してもらう等、医療・介護従事者のACPの周知およびスキル向上に努める予定である。